

総合的な学習の時間の実践

美幌町

総合的な学習
6年

異世代の方々とかかわることで学ぶ

「みつめてみよう」

～わたしたちにできること～

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます

単元の概要 と 単元構成

「バリアフリー」という言葉は、子どもたちでも日常的に使われる時代になっていますが、それは、施設面に対しての意味合いでした。そこで、異世代の方々と交流し、自分以外の立場になって考え行動することや、人をいたわる大切さに気付かせ、役に立つことができたという満足感をもたせたいと考え、単元を構成しました。まずは、高齢者や障がい者がいる施設を訪問することで、自分を見つめ直すきっかけ作りをし、最終的には「心のバリアフリー」を目指しています。

学習活動の流れ（35 時間）

校内にあるバリアフリーを取り上げ、活動のきっかけとしました。

同じ施設で3回交流を繰り返すことや学習の流れを定着させることにより、活動内容を見直し、改善・発展させていきました。

相手の立場になって考えることや人とのかわり方について考えさせ、自分を見つめ直すようにしました。

みつめてみよう美幌（3）

「バリアフリーって何？」

- ・ 美幌にはどんな施設や工夫があるかな

地域のいろいろな人と交流しよう（25）

- ・ 学校の近くの施設に行って交流しよう
- ・ 交流計画を立てて準備しよう
- ・ 交流しよう
- ・ 交流を振り返ろう
- ・ 次の交流に生かそう

みんなが楽しめるために（7）

- ・ 学んだことをまとめよう
- ・ いろいろな人とかかわるときに大事なことで何だろう

子どもに付けさせたい力と、
そのためにどんな活動が展開
できるのかを考え、実践しまし
た。

地域の施設とは、連絡を密に
取り、しっかりと教材研究する
ことが大切です。



施設を訪問する子どもたち

教材・活動の Point!



1. 校区内にある様々な施設を発掘しよう

地域には、様々な人たちが暮らし、生活しています。そして生活スタイルに合わせた施設も様々なはずです。教師自らが地域を歩き、どんな人たちが暮らし、どんな施設があるのか気付くことが必要です。また、実際に見学させていただいたり、お話を聞いたりすることによって教材化へのヒントをつかむことができます。

2. 繰り返し交流することで子どもに変化が！

3回訪問することによって、子どもたちは知ったつもりであったつもりではなく、実体験から理解して人とのかかわり方を学んでいくことができます。「どうしたらよいかわからない」から「できることをしよう」「やってみよう」という意識が徐々に芽生えてくる様子を実感できます。



3. マナーとルールはしっかり指導

経験から学ぶマナーやルールもありますが、最低限のマナーはしっかり指導してから訪問させることが大切です。事前の打ち合わせをきちんと行い、施設のルールについて確認しなければいけません。地域の中の自分という意識をもたせていくことが大切です。